



CCS便り

NPO 法人 キャリア・カウンセラー札幌

会報 Vol .29

2021年 6月 21日発行

〒060-0052 札幌市中央区南2条東6丁目 2-1
B-205

TEL. 011-596-6242

FAX. 011-596-6267

E-mail ccs2012@vega.ocn.ne.jp

URL <http://www.ccsap.jp>

口先だけでは何もできない

知り合いの一人に、表題のことを絵に描いたような人物がいます。

実によく、政治の事や世界経済の裏話などを調べていて、その手の話しになるとしゃべりだすと止まらなくなります。

何も関心なく、何も問題意識がない人よりは遥かにましではあります。

しかし、その人の問題意識は空回りしていてやり場がなく、解決策に話が及ぶことは少ないのです。

それでも、会うと毎回のように同じ話をテープレコーダーのように繰り返してアジテートする訳です。

こちらが馬鹿で前のことを記憶できない、とでも思っているかのようです。

その人に問いたいと思います。

問題の解決策として、貴方が信じている方策の実行を何故いまずぐやらないのか？と。

毎回繰り返す、同じ論理の社会批判は分かりました。

毎回いうことに対する解決策に向けて、すぐに行動すべきです。

それが、貴方が出来る最善策に違いない、と考えます。

また、アイデアや企画だけでは何事も具現化できない筈です。

地道な（あまりにもコツコツとした控えめな努力）下積みの目立たない活動の持続がなくして大きな成果は得られないと考えます。

そのことを理解できない人たちは、円滑な組織運営や活動に向かないことが多いのです。

その原因は、口先だけでは何もできないということに関する理解が出来ていないからといえます。

キャリア・カウンセリングに必要なこと

あるキャリア・カウンセラーのブログにあった言葉です。「言葉」だけが先走り、理解を邪魔する……。この部分にこの人のカウンセラーとしての深さを感じます。というのも、受容、共感で相手の理解に努めるのがカウンセラーの基本動作だと思うし、相手のことを深く理解しようとするれば、まずは聴きに徹する必要があります。自分の「言葉」に酔っている人間を偶に見ます。カウンセリングの神髄は質問を通して、相手の「気づき」を促すことだ、ということを忘れて夢中になって話しまくっている人を過去には山ほど見てきました。こうした現象を食い止めるには、その人に自らのカウンセリングの根本的な欠陥に「気づき」を促す、スーパーバイズの機会を増やすことしかないのです。こうしたスーパーバイズの機会を全国的にも増やしていきたいものです。更にスーパーバイズの必要性を痛切に感じたことがありましたので、以下に紹介します。それは、ある組織でキャリア・カウンセラー養成講座の講座担当をしていた時のことです。持っていた資格の上級資格の受験対策講座が行われました。自分だけで試験を突破する自信がなかったので、それを受けることにしました。指導者とロールプレイをしましたが、それは10分と続きませんでした。途中でロールプレイを止められて、こんなことを言われました。あなたの今のロールプレイは質問の量が少ない上に、状況の把握が不完全なままに次に進もうとした。そして、最後の数分は早すぎるアドバイスに入った。更に相手の理解もないままにアドバイスを繰り返ししそだったので中断したのだ。最初は何故、途中で止められたのか理解できなかったのですが、後でよく分かってきました。キャリア・カウンセリングでは聞くことに遠慮がある必要はなく、相当に突っ込んだことも聞いておく必要が高い、ということが理解できたのです。例えば、失業した時に貯金があるのか、自分の収入だけで生活可能なのか、家族構成は、居住地の賃金状況は等々、お金に関わることでもかなり深く状況把握しなければならない、というのが指導者のその時の話だったように記憶しています。これはお金だけではなく、本人の希望や能力の把握やその時の状況の把握（就活であれば準備の段階のどこにいるのかなど）のこまごまとした状況把握に乗っ取った情報共有からの本音の引き出しというカウンセリングの本質の理解に基づく実施に関わることに、気づかされました。そして相当な時間の質問をし続けたのちに本音の確認、方策の提示に向かうことを知ったのです。これは短時間のロープレでは普通は難しい、大きな収穫だったと今にして思います。つまり、スーパーバイズはいつも必要だということです。

(完)

編集後記

コロナ禍が終わりにならない状況下で、我々の活動も停滞を余儀なくされてきました。しかし、活動の再活性化に向けて準備を進めています。今年度は昨年度改良した研修の内容に工夫を加えながら新たな展開に向けて活動を推進していきます。(M.H)